

ミディトマト「華クイン」 糖度高く、品質良好

6月25日(月)、JA越後おぢや管内のトマト農家でつくる「小千谷トマト出荷組合」は、JAの千谷野菜集出荷場で、ミディトマト「華クイン」の目合わせ会を開きました。

生産者や市場の担当者らに参加し、品質や大きさなどの出荷規格を確認・共有しました。

同組合の金子義彦組合長は「例年と比べて生育がやや遅いが、糖度は高く、品質は良い」と出来を評価しました。市場の担当者

者は「軟果玉の混入に注意をし、昨年に続き、品質の良い物を出荷してほしい」と要望しました。

目合わせ会に合わせ、圃場視察も



▲現地でトマトの生育状況を確認する参加者

行いました。市場の担当者らと共に現地を見回り、生育状況を確認しました。

同出荷組合の「華クイン」は、フルーツのような甘さが高い評価を受けています。出荷期間は、6月中旬から8月下旬までで、数量は約11トンを計画しています。

初の相続セミナー 基礎や対策を学ぶ

6月30日(土)、JA越後おぢやでは、相続に関する理解促進を目的として「相続セミナー」を開きました。組合員ら74人が参加し、相続税の基礎や対策などを学びました。

同セミナーは初めての開催で、小宮博行常務は「大切な財産管理にセミナーを役立ててほしい」と呼び掛けました。



▲相続について理解を深めたセミナー

講演では、中央会計税理士法人の渡邊正知税理士を招きました。テーマは「いざという前に、事前に知っておきたい相続知識」。渡邊税理士は「相続対策は、早く始めると大きな効果が期待できる」と説明。「まずは、現状を把握し、問題を認識することから始めてほしい」と強調しました。

セミナーに参加した組合員は「これまで相続に関する話を聞く機会がなかったのですが、とても参考になった」と話していました。

セミナー終了後には、個別相談会も開きました。7組10人が、土地や建物、不動産などの簡易的な財産診断、生前贈与や遺産の分割、遺言書について相談をしました。

夏の北海道を楽しむ 合併15周年記念旅行

7月4日(水)から7日(土)と7月11日(水)から14日(土)、JA越後おぢやは、合併15周年を記念し、「北のさいはて利尻・礼文とラベンダーの富良野を楽しむ4日間の旅」を行いました。

2班に分けて実施し、組合員や地域住民ら総勢72人が参加しました。参加者は、食の宝庫・北



▲利尻島にある姫沼と利尻富士を収めた一枚

北海道で、本場のジンギスカン料理やウニ、ホタテに舌鼓を打ちました。

利尻・礼文が一望できるノシャップ岬では、綺麗な利尻山を楽しむ、多くの参加者が、その雄大な姿を写真に収めていました。また、日本の最北端「宗谷岬」では、参加者全員で記念撮影。日本の最北端に立っていることに感激していました。

ラベンダーが咲き誇る富良野「ファーム富田」では、ラベンダーやマリーゴールド、ダリアンなど、多くの美しい花々に囲まれ、楽しいひとときを過ごしました。

参加者のみなさん、夏の北海道を満喫した4日間となりました。

新規生産者を迎え ナス出荷本番

7月10日(火)、JA越後おぢやのナス生産組織「小千谷ナス部会」は、ナスの本格的な出荷に合わせ、JAの千谷野菜集出荷場で目合わせ会を開きました。

生産者や市場の担当者ら11人が参加しました。

同部会の間島勲部会長は「今年は気象変動が激しく、例年と比べて初期管理に苦労した」と話しました。

生育は順調で、出荷は10月上旬まで。総出荷量は3450kg(1kg5キ)を見込んでいて、ピーク時には

日量約70kgが出荷されます。今年は新たに生産者2人が加わり、品質の良いナスの生産拡大に期待がかかります。

今年就農し、部会に加入した五十嵐千恵さんは「農業はマニュアル通りにはいかず、先輩農家のアドバイザーなどに助けられて出荷を迎えることができた」と振り返り、笑顔を見せていました。

同部会は、生産者7人が、33・5坪で栽培に取り組んでいます。



▲ナスの出荷規格を確認する生産者と市場担当者

良質米へ穂肥適切に 特A奪還めざす

7月10日(火)から13日(金)の4日間、JA越後おぢやは、小千谷市の18会場で、稲作現地研修会を開きました。

生産者ら延べ470人が参加。穂肥の施用時期や病害虫対策など管理技術を確認しました。

研修会では穂肥施用のポイントを紹介しました。①1回目は、適正もみ数の確保と倒伏防止のため、生育診断で施用の時期と量を判断する②2回目は後期栄養を維持するため、出穂10日前ごろに確実に施用する」と説明しました。



▲研修会で魚沼米憲章の遵守や基本技術の徹底を呼び掛ける藤島常務

カメムシ類の水田侵入と増殖を助長する水田内のヒ工、ホタルイなどの雑草を確実に除草するよう強調しました。

藤島睦常務は「特A奪還に向けて、魚沼米憲章を遵守し、基本技術を徹底していただきたい」と参加者に呼び掛けていました。

JAは、適期の穂肥施用のため、生育診断に用いる葉緑素計の無料レンタルに取り組んでいます。また、生産者の携帯電話にリアルタイムの稲作情報をメール配信することで、確実な穂肥施用に結び付けています。

農業機械コスト低減を加速 コンバインセルフメンテ講習



食・農・くらしの応援団
JA 越後おぢや

7月14日(土)と15日(日)の両日、JA越後おぢやは、農業機械のコストの低減支援を目的に、簡易メンテナンス講習会を開きました。

会場は、JA小千谷車輛農機センターで、組合員ら100人ほどが参加しました。JA独自の自己改革の取り組みで、コンバインでは初めての開催です。

これは、日常的な点検・整備、消耗部品の交換などで農機を長く使い続けるようにしようとするもの。故障による作業ロスや修理に

かかるコストを抑え、自己改革の柱である所得増大につなげます。JAは今春に田植え機とトラクターを対象とした講習会を開きました。

講習会では、井セキ信越新潟支社系統部の古谷正係長が講師を務めました。実演機を使い、コンバインを安全に長く使うためのポイントを解説。「コンバイン

ときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、刈り取りロックをすることが重要だ」と強調しました。



▲コンバインのメンテナンスのポイントを確認した講習会

魚沼コシ 東京でPR 「おいしい」と評価上々

7月16日(月)、魚沼地域の6JAと市町などで行く「魚沼米改良協会」と「魚沼米対策協議会」は、魚沼地域の農産物や観光をPRするイベント『魚沼コシヒカリ』おいしい夏まつり」を開きました。

会場は、東京都原宿表参道の「ネスパス新潟館」です。魚沼産コシヒカリのおいしさを再確認してもらい、

認知度を高めることが目的です。

会場では、魚沼産コシヒカリの試食とアンケートを行いました。アンケートには、約300人が協力。回答者には、コシヒカリ(300g)をプレゼントしました。

併せて、小千谷産のミディトマト「華クイン」の試食も行い、小千谷産のPRに繋がりました。

家族連れや若年層の方々も大勢訪れ、魚沼産の食を楽しんでいました。

イベントに参加した米穀販売課の和田孝昭課長は「多くの来場者から『もちもち感や甘みがあり、とてもおいしい』と評価をいただいた。今後PRに力を入れ、魚沼米の盤石なブランド再構築をしていきたい」と話しました。



▲魚沼コシヒカリを試食する来場者

JAフェス開催 今年もにぎわう

7月21日(土)、片貝中央支店は、JA自己改革の一環で、JAフェスティバル2018を、片貝車輛農機センター前広場で開きました。

フェスティバルは、組合員や地域住民との交流、地域の活性化を目的に毎年開いています。今年も約1100人が来場しにぎわいました。

新潟のお笑い集団「NAMARA」の漫才や、長岡

市出身のアコースティックデュオ「ひなた」のライブなど、多彩な企画で来場者を歓迎しました。

JA女性部のブースでは、部員手作りのおから入りパンケーキや、玉こんにゃくが人気を集め、購入する来場者が目立ちました。夜の抽選会では、会場いっぱい地域住民が訪れました。

同日、片貝総合センターのコートで、ゲートボール大会も開きました。



▲にぎわいを見せたJAフェスティバル



食・農・暮らしの応援団
JA 越後おちや

ホールインワン飛びだす 合併15周年記念大会

7月18日(水)、JA越後おぢやは、小千谷カントリークラブで、合併15周年記念大会のJAゴルフコンペを開きました。

組合員や地域住民ら190人が参加しました。

この日は、2名の参加者がホールインワンを達成するなど、好プレーが連発。日頃の練習の成果を発揮し、熱の入ったプレーを繰り広げました。



▲熱の入ったプレーでゴルフを楽しむ参加者

健康情報ひろば

夏に多い子供の感染症について

厚生連小千谷総合病院

4階西病棟

(小児科・産婦人科・耳鼻科・眼科・内科混合)

看護師長 有馬小夜子



こんにちは。梅雨が明け、いよいよ夏到来ですね。夏はプールや旅行、お祭りなどの計画を立てている家族も多いことでしょう。楽しみですね。しかし、人が集まる場所に行くと子供が感染症をもらってしまうことがあります。いわゆる「夏風邪」と呼ばれ、夏に流行する感染症です。

今回は夏に多い子供の感染症についてお話します。そもそもなぜ夏に子供の感染症が流行しやすいのでしょうか。子供はいろいろな病気に対する抵抗力が未発達なうえ、気候の変化にも敏感です。夏は暑さによる体力の消耗や室内外の温度差による自立神経のバランスの乱れ、食欲不振による免疫力の低下を起こし、感染症にかかりやすい状態になっています。梅雨が明けてから暑さが本格化する日本の夏は、高温多湿な気候を好むウイルスが活動的になり、容易に感染してしまうのです。代表的な夏風邪は「ヘルパンギーナ」「手足口病」「咽頭結膜熱(プール熱)」があげられます。「ヘルパンギーナ」はエンテロウイルス属に属するウイルスに感染することで発症します。5歳以下が全体の90%以上で1歳代の割合が最も多いです。症状は38度以上の発熱と喉の奥に水泡ができ、飲み込むことに痛みを生じるため食欲不振になるこ

とがあります。感染者の咳やくしゃみ、また水泡の中身や便に排出されたウイルスによって感染します。

「手足口病」はコクサツキウイルスA6やエンテロウイルス71など、原因となるウイルスは複数あります。病名の通り、手のひらや足の裏、口の中に水泡性の発疹ができるのが特徴です。37.38度程度の熱が出る場合があります。4歳以下、特に2歳以下での発症が多いですが、学童期でも感染することがあります。感染者の咳やくしゃみ、便中のウイルスによって感染します。

「咽頭結膜熱(プール熱)」はアデノウイルスに感染することで発症します。プールの水を介して流行しますがプール以外でも、感染している人のくしゃみや咳、タオルの共有等でも感染します。39度以上の高熱、喉の痛み、真っ赤な目などの症状が特徴です。

以上、原因や症状について簡単に説明しました。これら3つの感染症は特効薬や予防薬はありません。そのため、対症療法を行い、自然に症状が消失するのを待ちます。安静にし、喉や口の中が痛いため飲水や経口摂取を嫌がる場合があります。脱水予防のためにこまめに水分補給を行い、薄味で喉越しの良いものを与えることが大切です。

子供は世の中にあふれるウイルスに接触し、時に感染しながら免疫をつけていくものですが、夏風邪にかかり、元気のない子供の姿は家族としても辛い思いをします。ほとんどは1週間ほどで回復しますが、まれに髄膜炎や脳炎などの重い合併症をおこすことがあります。発熱が長引いたり、頭痛や嘔吐などが続く場合はすぐに受診してください。